

光照寺

良寛が18歳のとき仏門に入る決心をし、住職玄乗破了[げんじょうはりよう]和尚により剃髪を受けた寺。名を良寛と改め大愚[たいぐ]と号し、備中玉島の円通寺へ旅立つまでの4年間をここで過ごした。

良寛記念館

良寛の遺墨を多く集蔵している記念館。丘を上ると良寛を慕ってここを訪れた山頭火などの歌碑がある。はるか向こうに、良寛が母を偲んで眺めた佐渡島が見えることも。

五合庵

国上山の中腹、国上寺境内の林の中にある、間口2間の萱葺きの小さな草庵。良寛が全国各地の寺で厳しい修行、研鑽を重ね、1793年(寛政5)頃から20年近く住みつき数々の詩歌や書などの作品を遺した場所だ。現在の庵は1914年(大正3)の再建。

たびのしおり

西国三十三観音満願記念参り
へ善光寺参拝と良寛さん足跡めぐりの旅へ

期 日:平成24年4月19日(木)~20日(金)

集合場所:鳳仙寺

集合時間:午前8時00分(時間厳守)

共同企画

鳳仙寺

桐生市梅田町1-58

TEL:0277-32-1177

企画主催

株式会社 観光

東京営業本部

東京都港区新橋3-2-7

TEL:03-3502-4041

○行程

期日	コース
4/19 (木)	桐生[鳳仙寺](8:00)——太田薮塚IC——北関東・上信越道——小諸IC——別所・信州鎌倉散策《北向観音・安楽寺・常楽寺・前山寺》——更埴：あんずの里——長野——善光寺(16:30) ご希望の方は夕詣り
4/20 (金)	～朝のお勤め～ 善光寺[宿坊](8:30)——上信越・北陸道——西山IC——良寛さんめぐり《剃髪の寺：光照寺・記念館・五合庵》——寺泊——関越道——太田薮塚IC——桐生[鳳仙寺](18:00)

※ やむを得ずコースに変更の生じる場合もあります。

※ 食事は1日目の昼食より2日目の昼食までご用意いたします。

○宿泊地及び電話番号

4月19日 善光寺宿坊 『兄弟坊』

長野県長野市元善町 463

Tel:026-234-6677

○観光案内

北向観音

本尊は千手観音菩薩。かつては別所三楽寺の一つ、長楽寺が護っていたが、現在の本坊は常楽寺。長野の善光寺と一対の厄除観音として広く信者を集めている。一般に寺社は東か南(極楽浄土の方向)に向かって立つものだが、ここは観音堂も観音像も、文字通り北の方角を向き、南を向く善光寺と向かい合うように立てられていることから「北向」の名が付けられた。来世の利益を願う善光寺と現世利益を求める北向観音の両方に参することで、現世と来世の幸福が約束されるという信仰があり、片方だけにお参りすることを「片参り」という。多くの著名人が訪れ、北原白秋の歌碑、新派の俳優花柳章太郎の供養碑などが残る。

安楽寺

安楽寺は約750年前に創建という由緒あるお寺。見どころはなんといっても国宝八角三重塔。この様式で現存するのは全国でこだけだとか。本堂裏にある伝芳堂には鎌倉末期の惟仙・恵仁和尚坐像が安置されている。

常楽寺

北向観音をお守りする寺で、今は天台宗の別格本山となっている。現在、国指定の重要文化財である場所に昔、大きな火柱といっしょに観音様の本尊が現れたという言い伝えがある。石造りの多宝塔で重要文化財となっているのは、全国でも二ヶ所しかなく貴重だ。

前山寺

弘法大師が修行霊場として開いた古刹。重要文化財の三重の塔は穢[えん]や匂欄[こうらん](手すり)などがついていないため未完成と考えられているが、その姿がすつきりとして美しいことから「未完成の完成塔」と呼ばれ親しまれている。

善光寺

一光三尊阿彌陀如来を本尊として祀る折りの聖地として、創建以来千四百年の長きにわたって法灯を護持してきた古刹。現在の善光寺本堂は、宝永四年(1707年)に再建されたもので江戸時代中期を代表する寺院建築として国宝に指定されている。「牛に引かれて善光寺参り」で有名な信州随一の名刹は、宗派を定めないので昔から多くの人々に信仰されてきた。威風堂々の山門をくぐり本堂へ。床下の真つ暗闇の通路を手探りで歩き、極楽浄土への疑前に触れる「お戒壇(カマバダン)巡り」を体験することができる。